

インターネットを介したストーカー被害の実態について

埼玉県教育委員会

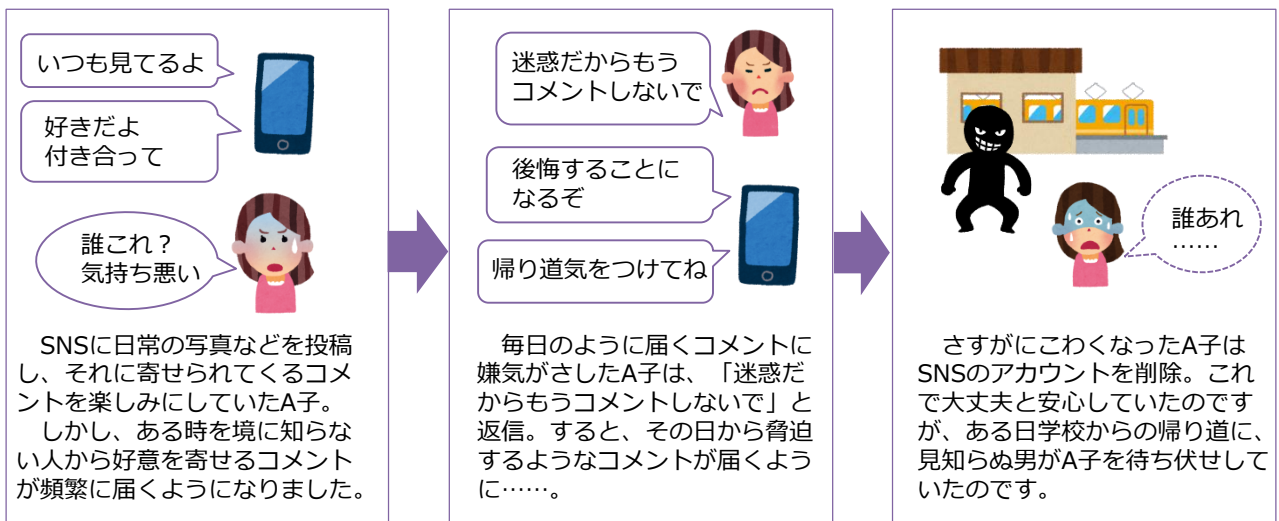
ネットストーカーという言葉をご存知ですか。最近ではニュースなどで取り上げられるようなことも増えましたし、「名前だけは聞いたことがある」という方も多いのではないのでしょうか。

ネットストーカーとは、インターネットを利用して特定の人物に嫌がらせをする人のことをいいます。SNSなどのインターネットサービスの発展に伴い、ネットストーカーの被害は増加しており、中には子どもたちが被害者になるケースもあります。

今回は、そんなネットストーカーの実態について説明していきたいと思います。

被害の例

では、実際のネットストーカーによる被害は一体どのようなものなのでしょう。ここでは、ネットストーカーの被害にあった子どもの例を紹介したいと思います。



ネットストーカーによる被害の内容はさまざまです。SNSやブログに好意を寄せるコメントがしつこく送られてきたり、掲示板に誹謗中傷の書き込みをされたり……そうした行為がエスカレートすると、上記の事例のように、過去の投稿内容などから個人情報を探られ、住所や通学路を特定され、実際に会いに来られるようなこともあります。

ネットストーカーの特徴について

ネットストーカーは従来のストーカーとは違い、被害者とまったく面識のない人物であることが多いといわれています。SNSなどのサービスでは、日常生活では言えないような本音や悩みなどを書き込んでしまいがちで、そうした投稿を頻繁にチェックしたり、何度かコメントでやりとりをしているうちに、投稿者に好意を持ったり、投稿者と親しくなったような錯覚を抱いたりする人が、少なからずいるのです。

こうした人物は相手から拒否されると裏切られたと感じ、相手を脅迫したり、実際に会いに行つて危害を加えようとしたりすることもあります。

インターネットを利用している人であれば誰でも、ネットストーカーの被害にあう可能性があります。まずはそのことを理解し、インターネットに自分や友だちの個人情報を絶対に載せないことが大切です。

もし、知らない人からしつこくメッセージが送られてくるようなことがあれば、拒否するようなメッセージを送るのではなく、すぐに保護者や学校の先生に相談しましょう。